

県、中小酒蔵向け実証実験

効だつたかなどを検証し、市場が拡大傾向にあるアジア向けの販路拡大や、新潟東港を活用したルートの構築につなげる。

実証事業は輸出産地の形成を目指す農林水産省の事業を活用した。2022年の県産

昨年8月にベトナムの現地バイヤーと、県内の酒蔵18社をオンラインでつないだ商談会を開催。その後酒蔵ごとに個別の商談を経て尾畠酒造の日本酒輸出が決まった。各種手続きではIT大手ビプロジェクト

中小規模の酒蔵でも輸出に取り組みやすくなるよう、県がIT企業などと連携して取り組んだ本年度の実証実験の集大成として、1月下旬に尾畠酒造（佐渡市）の日本酒が新潟東港からベトナムに出荷された。一連の取り組みが有効

日本酒の輸出量は30099キ
トと過去最高を記録してお
り、県もブランド確立や情報
発信などを行つてゐる。ただ
海外事業に注力することが困
難な中小の酒蔵もあるため、
実証実験を通じて海外展開を
後押しできるかどうか探つた。

県産日本酒

ベトナムに出荷

アジア販拡、ルート構築を



（東京）が提供する、酒蔵と輸入業者、輸送業者が商社を介さず直接やりとりできるクラウドサービスを利用した。

日本酒の積み込み作業が行われ、21日に出航した。韓国・釜山を経由し、近くベトナムの港湾都市ハイフォンに到着する。ベトナム国内では主にレストランなど飲食店で提供される予定という。

日本酒約1600本を出荷した尾畠酒造の尾畠留美子専務は「ベトナムは若い人口が多く、日本酒の市場が広がる将来性がある」と期待を込め

県地場産業・日本酒振興室の清水佑貴政策企画員は「新潟東港から新たな輸出の実績ができたので、商流として確立できるようにしたい」と話した。

新嘉日報

2024年(令和6年)
2月9日
金曜日